

波佐文化協会の歩み（PDF版）

⑥

7. 未来へ向かっての飛躍

- 地域研究センターの設立
- 地域まるごと博物館の推進
- 「学べる博物館」探検隊リレー講座

未来へ向かっての飛躍

- ① 日本チベット村の創設 とチベットセミナー開講
能海寛が構築した「チベット学」を発信する。
- ② 能海寛記念地域研究センターの創設
「能海学」の確立、「地域学」の定着を図る。
地域まるごと博物館を目指す総合学習拠点づくり。
- ③ 学術図書への寄贈受入事業の展開
チベット・中央アジア関係図書、考古学、歴史学、
民俗学、冶金学関係学術・研究図書の受入推進。
- ④ 高齢者授産施設の設置
地域研究センター内に併設し予防医学の推進。

【今後の活動予定】

「長寿の里福祉文化村」構想の下、「地域研究センター」を開設し、長寿福祉に対処する。

- ①地域交流室：シニア世代の交流拠点とし高齢者授産施設の機能を持たせる。
- ②地域研究室：さまざまな地域課題と取組み地域自立と「地域まるごと博物館」を目指す。
たたら製鉄・能海学などの「夏期セミナー」
- ③パネル展示室：浜田市の偉人（能海寛・島村抱月・俵国一など）の業績をパネル展示し、2つの資料館と連携する。
- ④学術図書室：考古学・歴史学・民俗学・冶金学・地方史・中央アジア・農園芸関係の学術図書を備えて地域研究に供する。

石峰と抱月のふるさと金城町^μ
ミュージアム^μ
地域まるごと博物館^μ



チベット巡礼探検家 能海 寛



文豪 島村抱月^μ

石峰と抱月のふるさと

地域まるごと博物館 ミュージアム 構想の説明会

日時：平成26年2月23日(日曜日)

【てこの里おぐに総合終了後午前11時～約1時間】

場所：小国まめな館

説明者：岡田正三様(波佐文化協会 会長)

能海 寛(号は「石峰」、島村抱月(号は「抱月」)二人の偉人が生まれ育った波佐・小国地域は、あらゆる形で顕彰活動を進めておるところです。

今回、地域の資源を活用した自然・歴史・文化・景観・まつりを包括する博物館(ミュージアム)と見立てネットワークして地域の活性化を図り、ただ見るだけの観光に終わらず、滞在型の観光・体験学習ができる『地域まるごと博物館』構想をたてました。

地域が元気になるための方策として内容の説明をいたします。
多数の方の参加をお願いいたします。



島村 抱月

抱月

用

主催
島村抱月生誕地顕彰会

共催
小国自治振興会
農事組合法人てこの里おぐに
小国公民館

日本近代劇の創始者
文芸評論家
美学者・翻訳家



能海 寛

石峰

宗教家・東洋哲学者
西蔵巡礼探検家

町の偉人探訪

石峰&抱月のふるさと『地域まるごと博物館』

波佐ネット通信

No. 1 2014.8.25

地域研究センター協議会

【参加団体】

- 西中国山地民具を守る会
- 波佐文化協会
- 能海寛研究会
- ほたる湯館G・ゴルフ場

石峰&抱月のふるさと「地域研究センター」協議会発足

8月23日(土)、午後7時30分から、ときわ会館において「地域研究センター協議会」発足式が開催されました。発起人代表あいさつに続き、来賓紹介(芦谷市議会議員、塚本波佐自治会長、田中小国自治振興会長)／祝詞披露(岡本昭二県議会議員、大屋俊弘県議会議員)、地域研究センター構想の説明、地域研究センター規約が原案どおり承認されました。会長に岡崎秀紀(能海寛研究会会長)が選任されました。

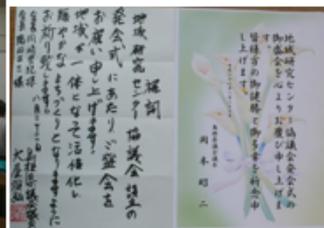
当初は、「長寿の里・福祉文化村構想」に基づいてシニア世代間の交流事業と予防医学で長寿の里づくりを推進する予定であったが、金城自治区から福祉関係は自治会が、シニア世代間の交流事業は、将来、公民館としてやるべき事業内容であるとの指導により、「地域交流事業」と、シニア世代「授産施設事業」は当面切り離して、「地域研究事業」と「都市交流事業」を推進することに決定した。従って、平成17年から実験的にやってきた「地域まるごと博物館」の推進を27年度から本格的に実施することとなった。機関紙として「波佐ネット通信」を発行して事業周知を図ることとした。

【地域まるごと博物館】

既に存在している地域の資源を活用して、地域全体を博物館と見立てネットワークする。自然・歴史・文化・景観・まつりを包括する地域資源を活かし地域活性化を図り、エコ・ツーリズムの推進で都市交流・滞在型の観光・体験学習ができるカルチャー・ミュージアム(学べる博物館)を目指します。ただ観るだけの観光に終わらず、学習ができる『地域まるごと博物館』をみんなで確立しましょう。金城歴史民俗資料館で古代史・中世史・たたら製鉄などの歴史学習が出来ます。2つの資料館で考古学・民俗学の学習ができます。固定公園大佐山・大湊山でハイキング登山、渡佐川での自然観察学習ができます。手ハット探検家・能海寛、文豪・島村抱月を通して、知的国際交流ができます。能海寛歌碑めぐりウォーク。笠松峠の壘石路ウォークが楽しめます。渡佐一本松城・水見城・花城で中世の山岳城郭が学習できます。常磐のカシ林遊歩道で自然観察会ができます。巨樹・巨木・名木めぐりで森林浴ができます。桑田岩石園で地質学が学べます。八幡宮の手水鉢で鏡八卦占いを楽しめます。目的に合わせて何回でも訪れたいふるさと創りを推進します。



全戸に呼びかけて発足した「地域研究センター発足式」の様。

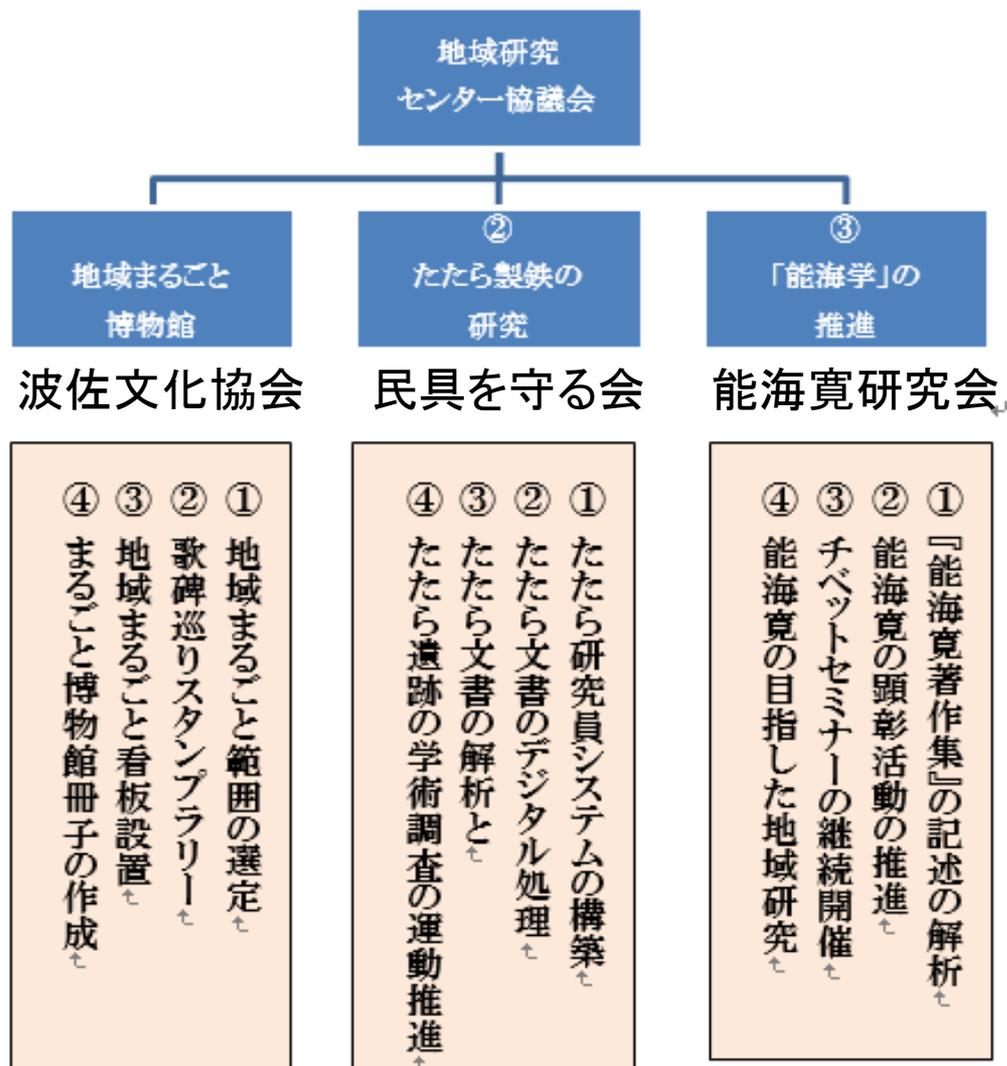


石峰&抱月のふるさと金城町
「地域研究センター協議会」発足

- ① 「地域まるごと博物館」の推進
- ② たたら製鉄の研究推進
- ③ 「能海学」・「地域学」の推進

【推進母体】西中国山地民具を守る会
波佐文化協会
能海寛研究会

地域研究センター協議会



【モデルコース】

- ① 能海寛歌碑めぐりコース
- ② 島村抱月文学散歩コース
- ③ 畳石路と城郭めぐりコース
- ④ たたら資料館とたたら関係
遺跡めぐりコース
- ⑤ 巨樹・巨木・銘木めぐりコース
- ⑥ 文化財めぐりコース

能海寛・島村抱月のふるさと金城町

【天頂山浄蓮寺と能海寛顕彰碑】

真宗大谷派の寺院。本堂は総ケヤキ造り、能海寛がチベットへ旅立つ前に設計しておき、大正5年に完成した建造物である。顕彰碑は、昭和57年6月6日に町民の浄財によって完成した。この顕彰碑は、顕彰碑、略歴碑、歌碑で構成されている。付近には、能海寛手植えのハクモクレン（浜田市指定天然記念物）が毎年4月上旬に見事な花を咲かせる。



【郷土の偉人顕彰板】

郷土の偉人チベット探検家・能海寛と日本近代劇の創始者・島村抱月の顕彰板（略歴碑）で、昭和51年11月28日に波佐文化協会の発起により町民の浄財で完成した。抱月の生誕地を調査・研究して、確定した事によって、この顕彰板が建立された。



【浜田市金城歴史民俗資料館】

文化年間(1804-1817年)に完成した「たたら舎」を歴史民俗資料館に改修したものである。石見地方唯一の「たたら関係」の資料館である。「二丁ふいご鎌」の復元展示、「たたら古文書」、「カンナ流、場絵図面」、「錘場絵図面」、「たたら用具」など1,000点。その他、郷土の偉人能海寛資料3,000点（この内の357点は浜田市指定文化財）、島村抱月関係資料100点や埋蔵文化財5,000点を収蔵している。



【浜田市金城民俗資料館】

浜田市金城町波佐・長田・小国地区より全点無償提供による民俗資料3,000点収蔵展示している。国指定758点、島根県指定221点など、特に紙漉き用具では全国でも稀な「カヤの漉笥」などの資料がある。石見地方山間部の生産用具、生活用具を体系的に収蔵・収蔵した資料館で、「いろりの間」の復元展示、権楽窯の復元展示、豊富な民俗資料で比較研究の出来る資料館である。



【常磐山八幡宮と大絵馬額】

宇治川の先陣争いで名を馳せた佐々木高綱が建立したこの八幡宮は文治元年の創建である。後に、尼子経久によって再建立された。秋祭りには夜神楽が夜明けまで奉納され、神楽殿には、大型の絵馬額が16面展示されている。裏山の杉の間には創建当時の野外的的場が現存している。鳥居の脇にある「手水鉢」は、享和3年、医師の田中見俊が奉納したもので、亀の姿が刻まれた水盤の中央に、八卦が配置されている。古くは、一文銭で八卦占いが行われていた。



【常磐山の杉】

八幡宮の裏山には、アシオスギと称される大杉5株が島根県指定天然記念物、日本老樹銘木指定、島根県の巨樹130選などに選定されている。一番の巨木は樹齢1千年と推定される。目通り8.5m、根回り11m。秋には紅葉し、春には新緑が蘇える大杉である。



【常磐のカシ林と遊歩道】

島根県指定「みんなで守る郷土の自然地域」の指定を受け、波佐文化協会が管理団体として、施設整備と清掃奉仕を行っている。このカシ林は33株のウラジオガシ（300年生）、100株のヤブツバキ群、常緑低木（チャボガヤ、ユズリハ、シロタモ、ハイヌ、ガヤなど）の混成林で樹間を遊歩道（石畳）160mが敷設されている。自然観察にうってつけの樹林帯である。



【笠松峠の登石路】

この登石路は文化8年に完成した旧津和野藩時代の奥筋道で、「錘と紙の道」である。頂上までの全長1,800mの内、登石部分は1,200mと、全国第2位の長さを誇る登石路である。登石の幅1.2m急な場所は鼻先を浮かせて階段状とし、馬の蹄が滑らないよう施行されている。錘の盛んだったこの時代は、井野村から砂鉄の運搬に馬が使用され、蹄で道が損傷するため、登石が敷設された。



津和野藩主亀井公が領内の御巡検で馬乗通行、能海寛も法務往来の時には、この登石を通行した。

【波佐一本松城跡】

鎌倉時代から戦国時代までの中世の山城で、主郭（300m）を中心とした4つの郭、腰郭、堅畝状空堀跡、堀切、切通し、軍用水路跡、石垣があり、防御を主にした守りの城郭。南北1km、東西400mの山城は弓矢の時代から鉄砲の時代まで使用されたため、空堀も工夫が施されている。波佐地区は、黒金（たたら鉄）の産地であったことから吉川元春夫人すず氏の御料所であった。周辺遺跡から12～15世紀の中国産の青磁が出土している。この山城の特徴は、陰陽道の鬼門除けの為に東北の方向に大歳神社を構築し、南の方向に入口を設けている。また礫石置き場、水攻めの施設など山城研究には最適な城郭である。



【千年比丘1号墳】

この千年比丘1号墳は、直径15mの円墳で石見地方最古の古墳である。埋葬施設は東西に川の字型に3つの埋葬施設がある。墳丘上には頭大の礫石が置かれていた。周辺には鼓型器台などが壊され、バラ撒かれた儀式的様相を呈している。周辺には縄文・弥生・古墳時代の集落遺跡があり、七瀬瀬Ⅱ遺跡の住居址はセットである。古代のたたら製鉄を研究する上で重要な遺跡である。



【大湊山の山つつじ】

広島県境の東側に位置し、山頂付近から東側200haにわたり、ミツバツツジ、キレンゲツツジの群生、柏の群落が山行者の目を染ませさせてくれる。古くは柏原山とも呼ばれ、奈良時代には石見国の国境の標示であった。「くにびき国体」では山岳踏査競技のコース会場として使用された。



【永昌寺と尼子経久公の墓】

戦国の武将尼子経久公が永正年間に長子・政久の霊を弔うため、この地に七堂伽藍の永正寺（臨済宗）を創建した。法華経3,000部が奉納されたという。この時の住職は京都・東福寺の明海賢宝和尚で、経久逝去の時、月山富田城下の葬儀に赴き経久公の分骨を永正寺に安置した。その後、永正寺は消失したため、津和野の永明寺の末寺として曹洞宗永昌寺と改称し、今日に及んでいる。永昌寺の裏山には、大杉（浜田市指定天然記念物）1株がこれらの歴史を見守っている。



【大佐山&雲月山】

西中国山地国定公園の大佐山（1,069m）と雲月山（918.8m）は、どちらもハイキングなど軽登山に最適な山容である。大佐山の東麓には大佐スキー場があり、国道186号線のすぐ側にあり、初心者でも楽しめるスキー場である。この2つの山は、古代から「鉄穴流し」の水源として貴重であった。雲月山は草原で女性的な山容で鉄穴流しの水路が現存している。特に大佐山は、広葉樹林帯の自然林が多く、春の新緑と秋の紅葉時は見事である。



【能海寛詠の歌碑10基】

チベット巡り探検家の能海寛師が中国・四川省でふるさと八景などを詠んだ歌10首を平成17年4月に碑として完成したものである。設置場所は、浄蓮寺、大歳神社、ときわ会館、浜田市金城民俗資料館、常盤山八幡宮、波佐天満宮、花城登山口の7か所である。

この歌碑を一巡すると6kmの歌碑めぐりウォークが楽しめます。毎年5月中旬には、「能海寛歌碑めぐりウォーキング大会」がときわ会館をスタート・ゴール会場として開催されます。



【亀谷家の速田神社】

亀谷家の由緒は、元尼子経久の家臣で香州から田中興市左衛門守晴が初代として来村、土着したものである。亀谷家の娘が安芸国速谷神社の宮司と婚姻関係であったところ、毛利軍との戦火に遭遇したため神官は亡くなった。天正11（1583）年8月、田中氏は速谷神社に出向き娘を引き取り、御神体を捧受して亀谷家へ持ち帰り、南西方向に「速田神社」を造営して御神体を納めた。「速田」とは、速谷神社と田中の姓の頭の一文字を用いたものである。



【島村抱月生誕地顕彰の杜公園】

島村抱月は、金城町小国下土居123番舎にて佐々山半三郎とチセの長男として生まれる。この下土居の生誕地に抱月の「胸像」、「略歴碑」、「歌碑」を建立し、「生誕地顕彰の杜公園」として整備されている。「知音都市交流」のシンボルとしてカチューシャの唄の「メロディボックス」が設置されている。



【桑田岩石園】

「桑田岩石園」は、「島村抱月生誕地の杜公園」の川向いにあり、桑田家（医師）は、抱月一家と親しく交流があった。この「岩石園」は、元桑田家の敷地内に島根県地質学会会長の桑田龍三氏が、収集した日本各地の岩石130点を公開展示している。園内では、桑田氏が丁寧に展示岩石の説明に応じていただける。



【大旧山光超寺の大イチョウ】

光超寺は、天正8年（1580年）創建の浄土真宗本願寺派の寺院で、境内の大イチョウ（浜田市指定天然記念物）の樹は、当時からの植栽樹である。島村抱月の父・佐々山一平は晩年には、光超寺の北側にすまいを構えていた。明治38年1月7日に一平は、いり端から失火して焼死した。その際に光超寺も類焼し、境内の大イチョウも片側が焼け焦げた。一世紀後の今日は、焼け跡の部分は樹皮が巻き込み傷口を癒している。



【ほたる湯館グラウンド・ゴルフ場】

浜田市金城町波佐イ267-2、国道186号線に隣接した、5千平方メートルの敷地内に21年7月にオープンした「ほたる湯館グラウンド・ゴルフ場」が市民交流の拠点として活況を呈しています。グラウンド・ゴルフ場は、駐車場、クラブハウス（休憩所）、バーベキュー場、トイレが完備されています。

日本グラウンド・ゴルフ協会公認コース（2コース・16ホール）、全面に姫高麗芝を植生。水と緑の自然環境の良いコースです。コース名は、石峰コース（チベット探検家・能海寛の雅号）、抱月コース（文豪・島村抱月）とふるさとの偉人から命名されています。

4月から11月までの毎月25日には、「抱月杯」、「石峰杯」、「ほたる杯」、「ほたる月例杯」3回、ベアー杯、「チャンピオン大会」等の各種大会が毎月開催されています。その外に「GG交流大会」（4月）、「GG場記念大会」（7月）、「納涼大会」（8月）も開催されます。

温泉館の周辺は「源氏ホタルの里」で、ほたる鑑賞の期間中は、このグラウンド・ゴルフ場が「ほたる回廊」として足元灯が灯され安全にホタル見物ができます。



パワーポイントによる講演メニュー

【モデルコース】 ①能海寛歌碑めぐりコース ②島村抱月文学散歩コース ③畳石路と城郭めぐりコース
④たたら資料館とたたら関係遺跡めぐりコース ⑤巨樹・巨木・銘木めぐりコース

	講演タイトル名	講演時間	映像数	内 容
1	他人の教育と自己研鑽～良師を求めて	120分	163	能海寛の幼年期・少年期。国内編①
2	信後の行～有言実行の生き方	120	250	能海寛の青年期。国内編②
3	不惜身命の生き方	120	240	能海寛の海外編。
4	チベット巡礼探検家・能海寛	120	268	一般向けダイジェスト版。
5	求道の師・能海寛	120	183	小・中学生向け。能海寛の生涯。
6	能海寛歌碑巡りウォークコース	60	72	歌碑10基と波佐八景を解説。
7	書簡に見る『能海寛遺稿』出版経緯	90	79	寺本婉雅と水野斉入(弟)の書簡を通して解明。
8	探検決意の源流を考証する	60	49	探検発起・学習・準備・交渉・実行過程を検証
9	まんがで見る能海寛の生涯	120	72	小学生向け。ふるさと学習教材。
10	文豪・島村抱月	120	132	抱月の生涯と業績をひもとく。
11	金城の観光案内	60	54	金城町の観光スポットをくまなく紹介する。
12	石峰と抱月に学ぶ	120	194	能海寛と島村抱月に共通して学ぶべき事柄。
13	ふるさと金城の偉人	120	88	岡本甚左衛門、能海寛、島村抱月の業績。
14	黒金(たたら鉄)の歴史	120	144	黒金を巡る攻防の歴史と江戸時代の農村の繁栄
15	実践民俗学を提唱して46年	120	281	日本で最初に実践民俗学を提唱して紙漉きなど10種類の実践記録。
16	金城町の古代・中世の歴史	120	118	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・江戸時代の通史を学ぶ。
17	かなぎミュージアム探検	120	69	金城民俗資料館の民具を教材に「ふるさと学習」
18	石見地方の紙漉きと紙祖	120	209	江戸時代の「米紙上納」の歴史を学ぶ
19	地下農民の生活史	120	89	農民の生産生活を地方史研究からひもとく。
20	波佐文化協会の活動記録	120	147	40年間に亘る生涯学習活動・事業推進の記録。
21	能海寛研究会の歩み	120	198	20年間に亘る能海寛の顕彰活動の記録。
22	生涯学習による町起こしの実践	120	147	40年間に亘る生涯学習の実践で町おこし活動
23	地域まるごと博物館(ミュージアム)	120	269	石峰と抱月のふるさと金城町「まるごと博物館」
24	波佐常磐山八幡宮のパワースポット	60	110	カシ林遊歩道、大杉、絵馬、手水鉢、的場紹介。
25	民俗資料回想セラピー	60	120	民具を用いた労働慣行を写真映像で回想します。

「学べる博物館」は、ミニ講演もセットでふるさと案内を行っています。

カルチャーミュージアム（学べる博物館） 探検隊リレー講座スタート



2015年5月～9月（5回コース）
詳細は、「波佐ネット通信」をご覧ください



笠松峠の畳石路

紙と鉄の道・津和野藩主領内巡見路

弥栄町

笠松林道

速田神社

亀石

畳石記念碑立石

堰堤登山口

起点

畳石終点

大芝・涼の松

笠松地藏堂

文化8年(1811)畳石路完成

笠松峠の全長1,800m

畳石部分全長1,200m

金城町波佐



畳石路探検コース



笠松峠の畳石路

笠松峠の畳石路を観て歩く 2015.11.7



大芝(津和野藩主領内御巡検時の休憩地)

波佐一本松城縄張り図

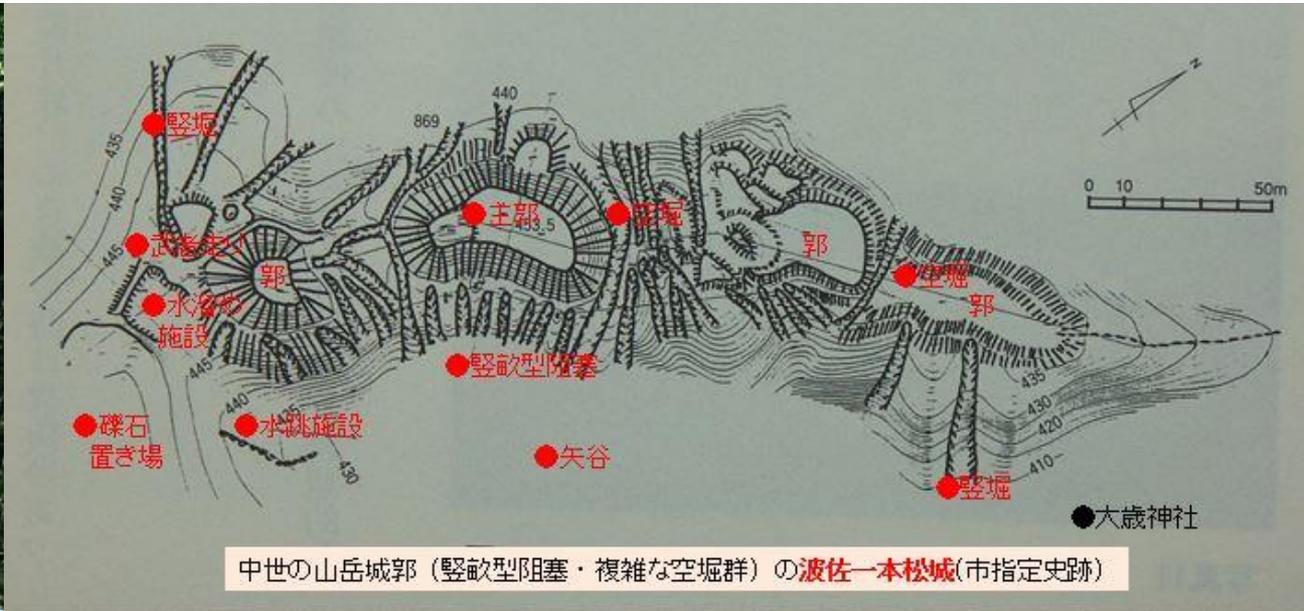


主郭を中心に東北の鬼門に大歳神社を建立し、南西の裏鬼門は切岸による鬼門除けとした。南側の虎口大堀切が大手となる。

城郭めぐりコース



波佐一本松城（武者走り）



城郭めぐりコース





尼子経久縁の永昌寺



尼子経久公の墓



速田神社

甘日市の「速谷神社」の御神体を祀る
「速田神社」の境内と亀谷家



能海寛のふるさとを訪ねる







アシオスギ

巨樹・巨木・銘木めぐりコース



ヤマモミジ



エノキ



イチヨウ



ウラジオガシ



散策遊歩道



ヤブツバキ



ホウノキ



ヤマフジ



ヤブツバキ

たたら遺跡めぐりコース



栃下鉦跡



古代長田別府時代を彷彿させる原風景



長田郷遺跡（縄文晩期）から勝示峠を望む

金城(番)の史跡案内し講座 地域まるごと博物館始動

浜田市金城町波佐地区を拠点に活動する市民団体などで行く「地域研究センター協議会」は、歴史や文化資源を生かした観光体験プログラム「地域まるごと博物館」を5月に始めた。地域の史跡などを巡るリレー講座を9月まで月1回開き、市外からの交流人口拡大につなげる。このほど開いた初回講座では、藩政時代の石畳の道を案内した。



初回講座で訪れた笠松峠の畳石路で、説明を聞く参加者

住民団体が 毎月9月まで 交流人口拡大へ

同協議会は、イベントを目標の4団体で昨年8月に目指した同市金城町出身の巡礼探検家・能海寛(1868〜没年不詳)に関する研究を続ける。能海寛研究会と一波佐文化協会のほか、西中国山地民具を守る会、はたる湯館G・ゴルフ協会の4団体で昨年8月に発足した。自然や歴史、文化などを包括したエコ・ツーリズムを推進して地域活性化を旨とする。

初回講座には広島県内から5人が参加。砂鉄や紙を運ぶため1811(文化8)に力であられた立派な石畳に

参加した木村正昭さん(66)は「自然や歴史、文化の奥筋まで、1・2キロの長さがあがる笠松峠の畳石路」を同協議会の隔田正二事務局長(73)の案内で歩いた。

驚いた。今後の講座にも参加したい」と話した。

講座では、山城一波佐一本松城、やたら製鉄関連遺跡などを取り上げる予定で、同協議会はインターネットサイトを中心に随時情報発信する。地域まるごと博物館に関する問い合わせは隔田事務局長、電話090(4697)2818。

ふるさと案内 2015年

たたらへの盛況ぶりしのび

金城・地域まるごと博物館講座



たたら製鉄の跡地に整備している遊歩道を手に取る参加者

鉄穴流し 関連遺構を訪ねる 跡地や炉跡

参加した4人は、鉄製品という「新下町」では、たとえ話した。製錬後に残る風石のかす。一底層が半壊した様子。屋敷を改修した市金城歴史民俗資料館で、復元したふいごたたらなどを見学し、生産の様子を実感した。

益田市西原町の寺戸和事務局長(73)の案内で、地城に残る園陣遺構を散策し、たたら製鉄がどのように営まれたかがよく分かった。

浜田市金城町波佐地区の住民団体などで行く「地域研究センター協議会」が本年度に始めた「地

浜田

城まるごと博物館」事業で、かつて盛んなたたら製鉄の関連遺構を訪ねる学習講座が4日、同地区であった。参加者が、砂鉄を採取した鉄穴流しの跡地や炉跡を巡り、地城を支えた往時の産業の盛況ぶりに思いをはせた。



榜示峠からの眺望

フィールドミュージアムの舞台
～これからは、景観・地域資源が財産～

大井谷の棚田風景





「地域まるごと博物館」を目指して

隅田正三

私が生涯学習に取り組んだきっかけは、森戸辰男氏から頂いた色紙に書かれた「終生学習」が縁でユネスコのポールラングラン博士の「生涯教育論」に接した昭和42年からである。

丁度その頃、明治百年を記念して島根県教育委員会で、「郷土の百傑」を選定されるとき、郷土の偉人であるチベット巡礼探検家「能海寛」は必ず選ばれると思っていた。ところが金城町からは「島村抱月」のみの選定となった。落選したことが能海寛研究に取組む火付け役となったのである。

これらの要因から「波佐史学研究會」、「西中国山地民具を守る會」を立ち上げ、民俗資料の調査・収集・保存・活用が軌道に乗り、一段落した47年には、念願であった生涯学習に取り組むために「波佐文化協会」を設立した。郷土の偉人、能海寛、島村抱月の研究・顕彰に取り組み、出版活動の一方では、受益者共同負担の原則で、波佐成人学級、波佐寺小屋セミナー、なわて塾を主宰して多くの人たちとあまねく公平な学習活動を推進してきた。

島村抱月調査では、小国地区を中心に明治初年頃の村方の三役（村長・助役・収入役）の子孫の私宅に保存されている公用文書、米問屋や酒屋の売掛

帳、香典帳、頼母子講記録、鈔関係文書など30数点の古文書から抱月の生誕地が小国下土居123番舎で生誕したことを確定した。

能海寛調査は、昭和58年8月、80年間、開かずの間となっていた浄蓮寺所有の回春堂の押入の調査で劇的な資料発見で大学講義記録、春秋日記など石炭箱10個(800点)を発見した。能海研究をより進化させるために波佐文化協会が全国へ呼びかけ、平成7年に「能海寛研究会」を立ち上げた。2か月に1回開催する定例学習会も118回を数えた。この間、全国各地での移動学習会も開催。平成12年には、中国銀川市において「世界会議」も開催して、漸く認知されるように至った。

波佐文化協会は、永年にわたる偉人の研究・顕彰活動などが評価され平成12年には、「サントリー地域文化賞」を受賞した。

今後は、屋根の無い博物館、学べる博物館を目指す「石峰・抱月のふるさと「地域まるごと博物館」の推進が私の目指す生涯学習の構築である。

◆ 著作より

求道の師能海寛………USS出版
文豪島村抱月………波佐文化協会

石峰&抱月のふるさと金城町
「地域まるごと博物館」

<http://www.hazaway.com>

